

【第34号】

白河地域在宅医療 拠点センター通信

令和2年9月発行



一般社団法人 白河医師会
白河地域在宅医療拠点センター
副センター長 杉原常夫
〒961-0908
福島県白河市大手町3-8 レジデンス楽市I-105
TEL:0248-21-8923 FAX:0248-21-9267
平日8時30分～17時15分(土日祝日休み)

拠点センター長就任のご挨拶

令和2年6月15(月)付けで、白河医師会会長に元 元行先生が就任されたことに伴い、拠点センター長も鈴木 茂毅先生より元 元行先生が務められることとなりました。以下、就任のご挨拶を掲載いたします。



この度、白河地域在宅医療拠点センター長を拝命致しました。

当センターは、多職種間の連携下、総合窓口相談、出前講座、医療介護従事者研修会、住民向け講演会、地域医療介護資源調査、医療介護地域資源地図作成、施設受け入れ情報の提供、在宅診療医との連携等の仕事を行っています。訪問診療医13名による令和元年度、在宅の看取りは127名で、特養などの数には及びません。住み慣れた家で死を迎えたいと望まれる方は少なくないにも拘らず、在宅での看取りはなかなか増えていないのが実情です。

当地域の医療福祉関連機関として、行政、病院、訪問診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、介護老人福祉施設、複合型施設、小規模多機能事業所、訪問リハビリステーション、グループホーム、通所介護施設、小規模デイサービス、訪問入浴、サービス付き高齢者向け住宅など、市町村で差はあれ地域包括ケアシステムが展開されています。

2025年問題を控えて、高齢者の尊厳を保持し、自立生活支援を図り可能な限り住みなれたところで自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる様な包括的支援、サービス提供体制が求められ、構築から円滑な運用へとフェーズが進んで来ています。

訪問診療医にとって、訪問看護ステーションの存在は何より心強いもので、地域での各ステーション間の連携、充実を願うものです。進歩著しい通信機器により、各関係者が一堂に会する必要も無く、迅速に情報の交換が可能になっている恩恵は大です。上手に道具を活用しながら接する方々の尊厳に敬意をはらいつつ進めて行きたいと存じます。

穂積 彰一先生、金子 大成先生、鈴木 茂毅先生、お三方センター長の築いて来られた当センターです。関係諸機関と連携を計り健康な元気のある町づくりに貢献して行きたいと存じます。

ACPコアメンバーグループワーク

第40回ACP(アドバンス・ケア・プランニング)しらかわコアメンバーによるグループワークが7月20日(月)16:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。今回も、新型コロナウイルス感染予防の観点で、3密にならないように、3人掛け長机に2人ずつ離れて座り、入室時には非接触型の体温計による体温測定と、アルコール消毒液での手洗いをさせていただきました。

また今回は癌に対するチーム医療 J-TOP(Japan Team Oncology Program)の中心"メンバ"でいらっしゃる秋田厚生医療センターの守田亮先生に遠隔から参加いただくために ZOOM を活用しての会議となりました。

冒頭、グループ長の東 光久先生より、守田先生の紹介及び40回続いているACP GWの経緯など説明があり、続いて杉原副センター長からACP出前講座の進捗状況報告、11月開催予定の市民公開講座(劇団あずま座)のポスターデザイン、コピーライティングについて、説明があり、ポスターについては参加者から意見を聴取。シナリオ等の詳細な検討は次回のテーマとなりました。

続いて穂積彰一医師からMCS(メディカルケアステーション:医療従事者のコミュニケーションツールの説明、穂積医師よりMCS(メディカルケア・ステーション)を利用して、と題した事例発表が行われました。グループ長の東医師からは、いままでの活動の振り返りと2020年度目標のリマインドが行われました。その中で、「ピンチはチャンス!」というキーワードで、ACPはCOVIT-19(新型コロナウイルス)においてより切実で、新たな発想を生み出すチャンスとの説明がありました。

第41回 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)しらかわコアメンバーによるグループワークが8月17日(月)16:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。今回も、新型コロナウイルス感染予防の観点で前回同様の対策を講じて行われました。

最初に杉原副センター長より、出前講座の進捗状況の説明があり、続いて11月30日(月)開催予定の市民公開講座の内容(ポスター・チラシ内容、配布先、部数、寸劇のシナリオ、配役)について説明があり、寸劇については、リハーサルのコアメンバー全員で読み合わせが行われました。シナリオについてはコアメンバーから多くの修正案が出されたため、次回までに修正し、再度読み合わせを行い、検討していただくこととなりました。グループ長の東光久医師からは、市民公開講座はメディへの取材呼びかけもすべきと意見が出され、過去のチャンネルを活用して、コンタクトすることとなりました。

令和2年度出前講座

令和2年7月10日 白河地区高齢者サロン「あったかセンター むかいでら」で出前講座が開催されました。

白河地域の住民向高齢者サロン『あったかセンター むかいでら』で新型コロナウイルス感染症についての講義が令和2年7月10日に行われ、住民の方27名が参加されました。

講師に地域のプライマリーヘルスケアの浸透を目指し、日々診療に努められている、すずき内科クリニック院長 鈴木 信夫 先生をお招きし、同クリニックの看護師の方々の参加も得て新型コロナ感染症対策についての講義・診療デモを行っていただきました。

冒頭、サロン代表の大野様から挨拶があり、続いて杉原副センター長より拠点センターの活動内容の紹介がなされました。

講義では、ウイルス感染症にならないためにはどうしたらよいかを中心にお話されました。この中で、感染経路は接触感染、飛沫感染、エアロゾルの3種類があり、それぞれ注意すべき点について説明と聴診器を使った診療デモなども踏まえ解説が行われました。

接触感染の説明の中では、菌(ウイルス)をウンチに喩え、ウンチに触らないゲームなども行われました。



令和2年8月3日 白河地区高齢者サロン「あったかセンター 白坂泉岡集会所」で出前講座が開催されました。

白河地域の住民向高齢者サロン あったかセンター白坂 泉岡集会所で『新型コロナウイルス 理解・予防・対策』をテーマとした出前講座が令和2年8月3日に行われ、サポーター・住民の方27名が参加されました。講師は拠点センターの杉原副センター長が務めました。

冒頭、サロン代表の松本光江様から挨拶があり、続いて杉原副センター長より拠点センターのメンバー・活動内容等の紹介が行われました。

講座では、新型コロナウイルス(SARS-COV-2)は、どんな病気をもたらすのか?、感染の経路は?、罹ってしまった場合の典型的な経過など、これまで得られている医学的な検証情報をもとに新型コロナウイルス感染症について説明が行われました。さらにその予防策については具体例を挙げ、説明が行われました。また白河厚生総合病院内にある発熱外来の紹介もなされました。

最後に、新型コロナウイルス感染症は怖い病気です。正しく恐れましょう。トータルの健康な心身を維持するために、よく笑って、よく寝て、ほどほどに食べて、毎日楽しく過ごしてください、と参加者へ呼びかけ閉会いたしました。

講座終了後の質疑応答では、次亜塩素酸の造り置きはしても大丈夫かなど、消毒液に関する質問などがありました。



令和2年度第1回在宅医療症例検討会を開催

令和2年度における第一回在宅医療症例検討会が白河地域在宅医療拠点センターで開催されました。

検討会には白河地域で在宅診療に携わっておられる医師6名と拠点センターメンバー4名が参加し、開催されました。

最初に、令和元年度の相談内容報告、在宅相談医診療件数、在宅・施設での看取り調査結果の報告が杉原副センター長より行われました。

続いて、MCS(メディカルケアステーション:医療・介護における情報連携を実現するプラットフォーム)を使用しての症例発表が穂積医師と岡崎相談員(拠点センター ソーシャルワーカー)によりそれぞれ行われました。

穂積医師の症例では、医師、介護支援専門員、薬剤師、看護師、介護福祉士の多職種間のやり取りが時系列的に紹介され、その有用性について、説明がありました。

岡崎相談員からは、MCSの活用について、その利点と課題について説明が行われました。

今年6月より拠点センター長になられた関元行先生の挨拶をもって閉会となりました。(次回開催は来年2月ころを予定)



(参考) ホームページ閲覧時のユーザー名 : ishikai パスワード : xxx18